

		事務局案	第1回 検討委員会 意見	第2回 推進委員会 意見	事務局案等補足説明
(1)根拠(例規)		日野市男女平等基本条例及び条例施行規則の改正	【継続審議】 条例及び規則の改正でよいが、「男女平等基本条例」にパートナーシップ制度が謳われているということが分かりづらいので、条例の名称の変更をした方がよい。 前文についても「男女平等」の観点しか入っていないので変更をした方がよい。	合意 検討委員会の意見に賛成。最終判断は市に一任することで合意。	条例の名称変更については、各委員会よりご意見をいただき、最終判断はご一任いただきたい。
(2)ファミリーシップ制度		非対応(*3~5年で再検討する。)	合意 【意見】ただし、ファミリーシップ制度を導入すると子どもも家族として証明できるので、学校や病院などの場面で、活用の幅が広げられるメリットもある。今回は非対応でもよいが、今後の検討事項として取り上げてほしい。	合意 【意見①】検討委員会の意見に賛成・同意。今回は非対応でもよいが、今後の検討事項として取りあげてほしい。 【意見②】検討の際には、子ども目線での制度設計にも留意されたい。	制度の理念は、請願と第4次男女行動計画に基づくもので、同性カップル等の二人の関係に着目している。制度のスタートは、同性カップル等の二人の関係を婚姻と同等と認めるパートナーシップ制度の導入から始めたい。
制度開始時期		R4年12月予定	合意(意見なし)	合意(意見なし)	-
(3)申請要件	①年齢	成年に達していること。	合意(意見なし)	合意(意見なし)	民法第4条の規定を想定している。
	②性別等	一方または双方が性的マイノリティであれば性別は問わない	【継続審議】 【意見①】性別は問わない(異性間の事実婚のカップルも含める)方が、利用しやすい。 【意見②】異性間の事実婚を対象にしなくてもよいが、「性的マイノリティであれば」という表現を変えて欲しい。	検討委員会意見に賛成 【意見①】制度導入の目的を考えると「同性同士」に限ってもよいのでは。 【意見②】「性別は問わない」というのは異性間の事実婚を含めるという意図ではない。異性間の事実婚カップルにはこの制度に異議を見いだせないのではないかと。 【意見③】申請時に「性的マイノリティに該当する」と確認などで申告させられるのは、気持ちがよいことではないのでは。確認する際には、「性的マイノリティ」という表現は変えたほうがよい。 【意見④】性自認や性的指向が揺れることはある。「性別は問わない」の方が柔軟で良い。 【意見⑤】同性婚は法律で認められていない。法律で認めていないものを自治体独自で取り組むものであり、訴訟のリスクもある。ある程度、当事者の希望を聞き、権利を保護していくという共通理解が必要ではないか。	以下の2点から、事務局案を提示している。 ①異性間の事実婚状態にあるカップルと同性間の事実婚状態にあるカップルとでは、認められている権利が異なる。 ②第4次日野市男女平等行動計画では性的マイノリティの支援としていること。(性別や性自認を理由として婚姻届を出せない同性等カップルを、婚姻と同等の関係にあることを認める制度を策定することを目的としている。) ③戸籍上の同性同士に限ると網羅できない場合がある。
	③住所地	下記①~②のいずれかに該当すること。 ①双方が市内に住所を有する、もしくは、転入予定であること。 ②二人のうちいずれか一方が市内に住所を有する、もしくは転入予定であること。	【継続審議】 意見なし。 *ただし、住所の要件が要件④配偶者等の②パートナーシップ関係の確認と関連性が深い(双方とも市内に住んでいない場合、双方以外の方とパートナーシップ関係がない事の確認をとるのが困難)ため、市内在住予定者について認める場合の条件などについて、再度、ご意見を伺う予定。	事務局案合意 【意見①】近隣市で足並みそろえ、転出しても互換性のある制度にできるとよいと思う。 【意見②】市で今後もよく検討してほしい。	継続審議の提案事項:原則、双方が市内在住であることとする。ただし、3か月以内に転入予定の場合、申請対象とする。 (原則、市内在住とした理由) ・条例の効力は市内に限定される。 (転入予定者を含めた理由) ・制度の活用の幅が広がる。(不動産の賃貸借契約を結びやすくてできる等の効果が望める)
	④配偶者等	下記①~②の両方の条件を満たしていること。 ①双方に配偶者がいないこと。 ②双方以外の人とパートナーシップ関係がないこと。	【継続審議】 意見なし。 *性別要件について、「誰でも利用できる」とした場合、左記に「③双方以外の人と事実婚関係がないこと」を追加する必要がある。	検討委員会意見に賛成・同意	②性別等の要件により、確認する範囲が変わる。

		事務局案	第1回 検討委員会 意見	第2回 推進委員会 意見	事務局案等補足説明
	⑤その他	・直系血族・三親等内の傍系血族・直系姻族でないこと等(民法第734条、735条、736条に相当)	【継続審議】 相続等の対応のため、養子縁組をしている同性カップルもいるため、養子縁組しているカップルに関して利用できるよう、除外規定を設けてはどうか。他市の状況について、可能な範囲で状況を調べ、次回の委員会で情報提供してほしい。	検討委員会意見に賛成 養子縁組しているカップルについても、パートナーシップ制度を利用できるようにしてほしい。	婚姻に準じた制度とすると、養子縁組をしているカップルは申請できない。
(4) 申請方法	①申請窓口	平和と人権課、市民窓口課、七生支所	第2回検討委員会 (11/19開催)にて検討	事務局案合意 【意見①】複数の所属で、個人情報を取り扱うことになるので、取り扱いには注意が必要。	事務局案では、制度の担当課である平和と人権課と、婚姻届を提出できる窓口を想定。 近隣市と同様にプライバシーに配慮するため、予約制としたい。
	②手数料	無料		事務局案合意 (意見なし)	近隣市と同様に無料を想定
	③証明方法(形式、内容、(証明、宣誓、登録、届出等))	宣誓に基づく証明書類の発行		事務局案合意 (意見なし)	-
	④通称名の使用について	可(ただし、通常使用していることがわかるものを申請時に提示)		事務局案合意 (意見なし)	-
	⑤証明書の書式	(3)と(4)-③、④の申請要件等を決定後に検討		事務局案合意 (意見なし)	-
	⑥申請書類の書式	(3)と(4)-③、④の申請要件等を決定後に検討		事務局案合意 (意見なし)	-
(4) 申請方法	⑦提出書類	住民票	必要	事務局案合意 【意見①】住民票は不要では。 【意見②】制度を悪用される可能性もある。住所要件の確認のため、住民票も必要だろう。 【意見③】要件を満たさなくなった際の把握が難しい。先進事例を参考に手続きを検討されたい。	住所要件の確認。
		戸籍謄本/抄本	戸籍謄本	事務局案合意 (意見なし)	婚姻していないことの確認。
		独身証明書とその翻訳(外国籍の方)	必要	事務局案合意 (意見なし)	外国籍の方について、婚姻していないことの確認。
		独身証明書が必要な場合、独身証明書が出ない国の場合の対応	独身証明書に相当する書類とその翻訳を提出	事務局案合意 (意見なし)	-
		本人確認書類	必要	事務局案合意 (意見なし)	提出者の身元確認。

		事務局案	第1回 検討委員会 意見	第2回 推進委員会 意見	事務局案等補足説明
	本人確認書が必要な場合、何を以て本人確認書類としているか	・個人番号カード(マイナンバーカード)、旅券(パスポート)、運転免許証、在留カード、官公庁が発行した顔写真付き免許証等の場合は1点 ・保険証(国民健康保険、介護保険等)、年金手帳、年金証書等の顔写真のないもの場合は2点提示	第2回検討委員会 (11/19開催)にて検討	事務局案合意 (意見なし)	-
	公正証書正本/謄本	不要		事務局案合意 (意見なし)	(4)の③と関係している。
	⑧その他	上記以外の検討事項はこの部分で対応		事務局案合意 (意見なし)	-
(5)申請要件を満たさなくなった場合等の各種届出	①転出時	必要		事務局案合意 (意見なし)	-
	②亡くなられた時	必要		事務局案合意 (意見なし)	-
	③パートナーシップ解消時	必要		事務局案合意 (意見なし)	-
	④申請内容に疑義があったことが判明したとき	必要	事務局案合意 (意見なし)	申請内容の「疑義」…未届けのまま転出している場合などを想定している	
	⑤その他	(5)要件の届け出が必要な場合の様式は、(3)と(4)③④の申請要件等を決定後に検討	事務局案合意 (意見なし)	-	